

法人賛助会員様

きらりケア☆リレー

第30回 西宮協立リハビリテーション病院



こんにちは!西宮協立リハビリテーション病院です。当院は2002年に西宮市の社会医療法人甲友会(当時は医療法人社団)の回復期を担う病院として誕生しました。介護というと介護施設を思い浮かべる方が多いと思いますが、当院のようなリハビリテーション病院では、介護職への期待はますます高まっています。介護職は看護師や療法士など、さまざまな職種と連携・協働し、患者さまの思い描く転帰先や生活というゴールに向かって一番身近な伴走者として活躍しています。

そんな介護職の最近の「頑張っているトピックス」を2つ、ご紹介いたします。

☆ひとつは、介護福祉士の受け持ち制の本格的な始動と定着です。回復期リハビリテーション病棟では、患者さん1人に9職種(歯科医師や装具技師など含めるともっと多くなります)の担当者がいます。介護職の担当としての活躍の場は未知数で、ADLの改善だけでなく認知機能の維持や向上のために自分たちに何が出来るのか、考え試行錯誤する毎日です。受け持ち患者さんを通じて、看護師と協働し、他職種とも関わる中で、介護職に求められるニーズや患者さんの一番身近な職種として頼りにされている、ということを実感しています。そして何より、患者さんの回復過程に入院から退院、退院後の生活までも見据えて接することで、やりがいを感じながら、日々奮闘しております。

☆ふたつめは、外国人介護福祉士との協働です。昨年度よりベトナム人の介護福祉士の雇用を開始し、現在は3名の常勤介護福祉士と2名の学生アルバイトが働いています。この導入に当たっては、事前準備は介護職が、受け入れには介護職のみならず看護やリハビリスタッフの協力を得て、現在も工夫を凝らしながら進めています。今年度常勤採用されたスタッフは夜勤業務にも入り、日本人同様に経験値を高めています。外国人スタッフを受

け入れる前は、不安や心配もありましたが、彼女たちの仕事に取り組む姿勢やコミュニケーション能力の高さに、私たち日本人スタッフも初心に帰り、非常に良い刺激を与えてもらっています。

トピックス以外にも、介護職を中心とした取り組みに病棟起立訓練やセラピーレクリエーション(通称:セラレク)もあります。

【起立訓練】

回復期では365日リハビリテーションを実施しており、1日最大3時間の療法士による訓練があります。これ以外に限られた入院期間を最大限に時間を有効に使っていただくとうと120回の起立着座訓練を行っています。スタンプカードや音楽を流してモチベーションを高めたり、個々に回数や方法をアレンジするなどの工夫をしています。

【セラレク委員活動】

多職種で構成された委員会で、コロナ禍でも楽しめる病院内行事を企画運営しています。書道展やスタンプラリー、映画鑑賞会など、介護職を中心に、入院生活に彩りを添える催しをスタッフも楽しみながら活動しています。

このように沢山活動している介護福祉士の私たちがですが、元気の源は「ワークライフバランスが取れている」ことです。定期的に連休を取得し、旅行でリフレッシュしたり、趣味の時間を堪能し、また現場に戻り頑張ることができています。

